子ども
ネット被害の調査

一班

202420522 阿部稜　202420526 岩井大典
202420559 陳佳曄　202420539 髙山飛勇吾

事例紹介

<u>こどものネット被害</u>

東京都町田市立小学校に通っていた6年生の女児が去年11月、複数の児童からのいじめを訴える遺書を残して自死。女児は情報端末(学校から配布されたタブレット)のチャット機能で悪口を書かれるなどの被害を受けていた。

現状・問題

青少年のインターネットの利用率は年々増加し、100%に近い値を示している（こども家庭庁）

SNSに起因する事犯の被害児童数は、依然として高い水準で推移している（警察庁）

※青少年：満10歳から満17歳

　児童：18歳未満

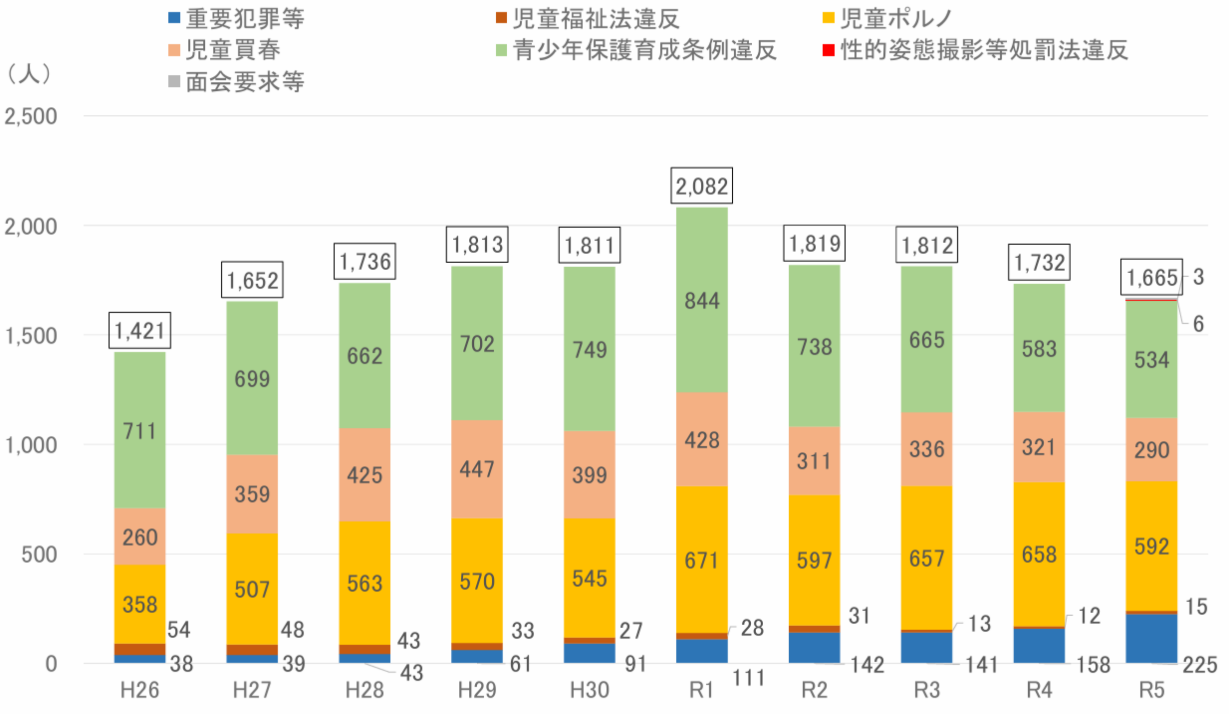


図　罪種別の被害児童数の推移（警察庁）

課題・目的

課題

- 被害の多様化

  単一の機関が全ての種類の被害を把握し、全体像を掴むことが困難

- 対策の点在化

  対策は被害の種類によって異なる

  様々な機関が独自に対策を発表しているため、情報が点在化

子どものネット被害および対策の全体像を掴み、整理・分類した事例はほとんどない

目的：国内の子どものネット被害および対策の包括的な整理・分類
最新の子どものネット被害の分析・対策提案

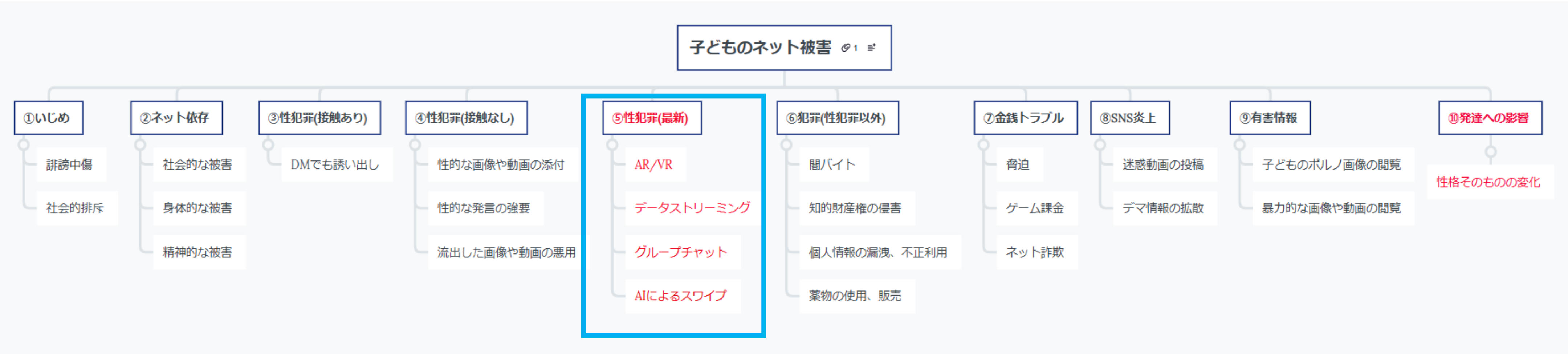
研究方法

- 論文
  学術的には、子どものネット被害に関する研究が多い。同様に、さまざまな対策が打ち出される
- 政府の文書（政府広報、警察庁、総務省）
  政府のウェブサイトには、子どもの被害のデータと種類が掲載される
- ニュース
  ニュース報道によると、子どものいろいろなネット被害も公開される
- ネット
  最新の情報をネットで調査した（アプリやプラットフォームなど）

総務省の定めたネット被害の全体像

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/pdf/1-1_b.pdfより作成

今回作成した新しいネット被害の全体像



最新の性犯罪に着目する

２つのアプリを使った動画の共有

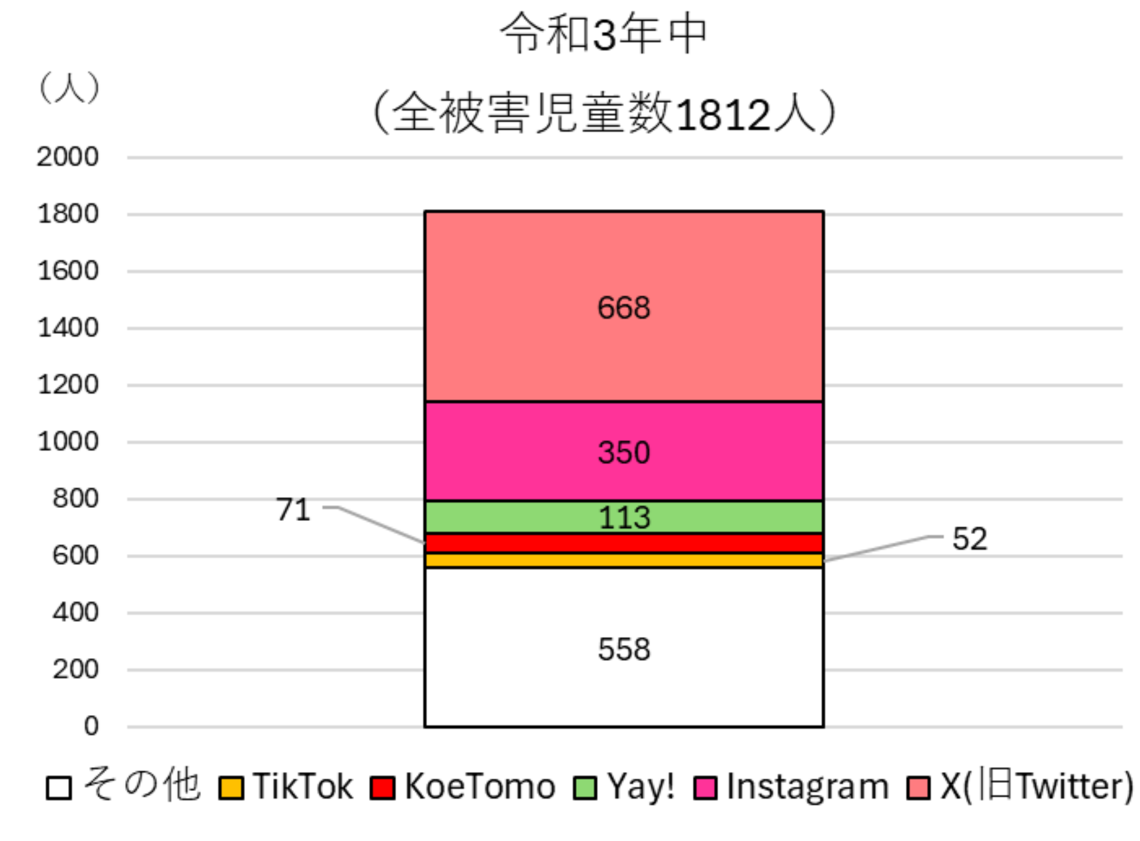
- 犯罪者のつながりになるアプリ
- 画像･動画共有するアプリ

犯罪者同士がつながりを持つ、
きっかけとなるアプリ

巧妙化

繋がった後に画像や動画を共有する
アプリに移行
<u>特徴：特定しにくい</u>

犯罪に利用されやすいアプリ



【SNSに起因する事犯】
被害児童者数が多いアプリ(警察庁)

順位

1位	X(旧Twitter)
2位	Instagram
3位	Yay!
4位	KoeTomo
5位	TikTok

<u>犯罪に利用されやすいアプリの特定</u>
各アプリの10代のユーザー数の違いが
順位に与える影響を評価する必要がある

※児童:18歳未満

アプリ	10代ユーザーが被害に遭う確率(%)
X(旧Twitter)	0.010
Instagram	0.004
Yay!	0.002
KoeTomo	0.003
TikTok	0.001

被害児童者数の順位と比較しても、Yay!、KoeTomoの順位が入れ替わった以外に変化がなかった
→10代ユーザー数が順位に与える影響は小さいと判断できる

上位のX（旧Twitter）、Instagramを中心に犯罪に利用されるアプリの機能・特徴を整理する

※10代の人口は総務省統計局の人口統計データを参照した
Yay!、KoeTomoについてはユーザーの大部分が10代、20代であるため、総ダウンロード数の80%が10代と仮定した

	全年代(N=1,500)	10代（N=140）	20代（N=217）	30代（N=241）	40代（N=313）	50代（N=319）	60代（N=270）
LINE	94.9%	95.0%	99.5%	97.9%	97.8%	93.7%	86.3%
X（旧Twitter）	49.0%	65.7%	81.6%	61.0%	47.3%	37.0%	19.6%
Facebook	30.7%	10.0%	28.1%	44.4%	39.3%	32.6%	18.9%
Instagram	56.1%	72.9%	78.8%	68.0%	57.2%	51.7%	22.6%
YouTube	87.8%	94.3%	97.2%	97.1%	92.0%	85.6%	66.3%
ニコニコ動画	13.7%	23.6%	24.4%	17.8%	10.5%	9.4%	5.2%
TikTok	32.5%	70.0%	52.1%	32.0%	26.8%	25.4%	13.0%

【令和5年度】主なソーシャルメディア系サービス／アプリ等の利用率（総務省）

アプリ	匿名アカウント作成	DM機能	reply機能	通話機能	画像・動画投稿	ライブ配信
Twitter	○	○	○	△	△	△
Instagram	○	○	○	△	○	○
Yay!	○	○	○	○	△	×
KoeTomo	○	△	△	○	△	×
TikTok	○	△	△	×	○	○

○：機能アリ（主要な機能）
△：機能アリ（限定的）
×：機能ナシ

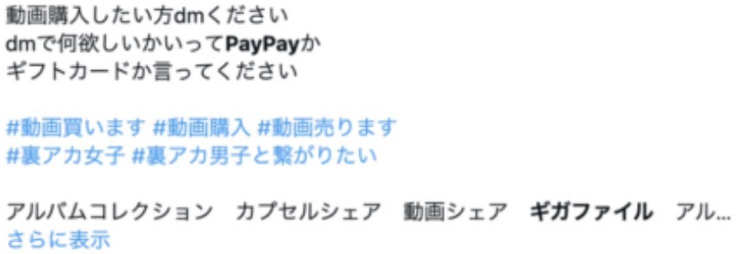
上位アプリに共通して有する主要な機能
・匿名アカウント作成
→匿名で子どもへの接触が可能
・DM機能
→1対1でのメッセージ・お金のやり取りが可能
・reply機能
→誰にでも（フォローワー以外にも）投稿に対してreplyが可能

DMや通話機能のような1対1でのやり取りが主要な機能としてある場合に犯罪に利用される可能性が高い
DM機能 >> 通話機能

位置や人物が特定されやすい画像・動画投稿や、リアルタイムでやり取りをするライブ配信
→上位アプリが機能して有している場合が多いため、要因の一つであると考えられる

別アプリで加害続けるものたち

被害者の性的画像は、大容量のファイルを無料で送受信できるサービス「ギガファイル便」などでも多くやりとりされる。ギガファイル便の場合、お金のやりとりはPayPayなどのキャッシュレス決済によって行われる。



未成年の動画や盗撮を販売しようとするXの投稿は、今も続いている

シェアプラットフォームの問題点

	カプセル （iPhoneなし）	動画シェア	ギガファイル	アルバムコレクション
ユーザー登録	ユーザー登録不要	ユーザー登録不要	ユーザー登録不要	2024年1月31日から 廃止される
アプリケーション	あり	あり	あり	
ウェブページ	なし	なし	あり	
人数制限（審査）	人数制限不明 審査なし	公開範囲やダウンロード可能人数に制限がある （10回以下は検査なし、11 ~ 100回、 システムが自動的にチェック、 100回以上、管理者が審査）	ダウンロード制限なし 審査なし	
データの制約	大容量アップロード有料	不明	容量無制限 （１ファイル３００Gまで） アップロード後最大１００日間保持	
人気	ユーザーの減少から 動画を共有している人は あまりいないようだ	2番目に人気	現在最も人気のある 動画共有サービス	
利用規約の確認	利用規約を提示せずに使っている	アップロードする前に利用規約の確認がある	利用規約を提示せずに使っている	

現在主流となっているシェアプラットフォームの比較

アルバムコレクション
なぜ廃止されたのか

子どもや女性の性的画像が取引されていたアプリ「アルバムコレクション」は、2024年1月31日をもって、すべての機能が使えなくなる。昨年12月31日に、アルバムコレクションのウェブサイト上でサービスの終了を告知していた。

アルバムコレクションが運用を始めたのは、2017年頃である。約6年にわたって、多くのデジタル性暴力被害を助長してきた。子どもへの性暴力、撮影や第三者への提供に女性の同意がないもの、トイレや駅などでの隠し撮りを取引する場になっていた。

シェアプラットフォームの問題点

▸ユーザー登録が不要で、規制が弱く、未成年の動画を簡単に流してしまっている。

▸人々は無制限の共有プラットフォームを好む傾向にある。

▸共有プラットフォームは規制が行き届いておらず、
　利用規約がきちんと示されていないところもある。

テレグラムとは

テレグラムは、2013年にロシアのパベルに
よって開発されたメッセージングアプリ。
クラウドベースだが、セキュリティ性が高く、
エンドツーエンド暗号化やメッセージの自動削除機能。
検閲の回避を目的としたユーザーに人気。

犯罪に利用される機能

1. エンドツーエンド暗号化

メッセージ内容が第三者（含む法執行機関）に閲覧されない

2. 自動削除メッセージ（シークレットチャット）

メッセージを一定時間後に自動的に削除することが可能
犯罪に関与した証拠が残らない

3. 大規模グループチャットとチャンネル機能

数千人規模のグループチャットやチャンネルを作成可能
メンバーに一方的に情報を発信することが可能

4. ログがサーバに残らない

警察が問い合わせても、犯罪の証拠が残っていない

対策に向けての議論
テレグラム開発者逮捕

- パペル逮捕
- 当局の麻薬密輸・児童ポルノに使われてれいるのを放置した、要請に応じない 公務執行妨害の疑いで逮捕
- フランスでパペル・ドゥロフ氏逮捕
- 国際的に、ネット犯罪の対策が強化されてきている

まとめ･今後の課題

･3つの媒体で子どものネット被害の情報を集め、最新の全体像を作成した。

･デジタル技術を使った最新の性犯罪に着目して、犯罪に利用されやすいアプリやテレグラムを用いた犯罪など、最新のネット被害の全貌を明らかにした。

･今後の課題として、国際的にネット犯罪への対策が強化されている中で、より主体的に子どものネット被害全体を撲滅できるような対策を考案、提案していくことが挙げられる。

参考文献

・FNNプライムオンライン, https://www.fnn.jp/articles/-/238776
・SecurityGo, https://www.trendmicro.com/ja_jp/jp-security/24/h/breaking-securitynews-20240828-01.html
・読売新聞オンライン, https://www.yomiuri.co.jp/world/20240826-OYT1T50062
・一般社団法人日本家族計画協会, https://www.jfpa.or.jp/kazokutokenko/topics/001460.html
・総務省統計局, https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202409.pdf
・総務省情報通信政策研究所, https://www.soumu.go.jp/main_content/000953020.pdf
・こえログ, https://koe-log.com/yay-dangerous/#:~:text=Twitter%E3%81%AE20
・Meetscom株式会社, https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000056984.html
・株式会社ナナメウエ, https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000043.000044875.html
・Meetscom株式会社, https://meetscom.co.jp/lp/
・FNNプライムオンライン, https://www.fnn.jp/articles/-/238776
・原清治. (2022). ネットいじめの現状と課題: 子どもたちの磁場で何が起きているのか. 教育学部論集, 33, 95-114. 鈴木款. 町田市立小学校6年生女児の自死とネットいじめの現状. FNNプライムオンライン. Published October 1, 2023.
・藤井壽夫. (2023). コロナ禍 2 年目における中学生のインターネット依存傾向と関連諸要因との関係, 及び前年度研究との比較検討. 函館短期大学紀要, (50), 17-27.
・井上泉. (2021). ベネッセ個人情報漏えい問題. サステナビリティ経営研究, 1, 100-118.
・藤原佑貴, 宮寺貴之, & 久原恵理子. (2023). インターネットで知り合った被疑者による女子の自画撮り被害の特徴. 心理学研究, 94(4), 289-299.
・田中大智, 高口鉄平, & 実積寿也. (2021). 未成年者の SNS でのネットリスク低減策に対する社会負担可能性の実証分析― AIを活用した 「誘い出し防止アプリ」 への寄付意思額―. 情報通信学会誌, 39(2), 45-57.
・Tansa, https://tansajp.org/investigativejournal/10520/